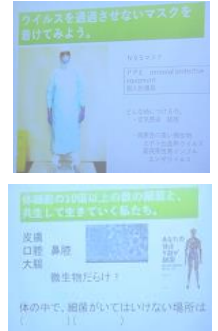


1年生「産業社会と人間」講話 ～生活に役立つ身のまわりの細菌とウイルス～

1月26日に島根大学医学部佐野千晶准教授に来ていただき、「生活に役立つ身のまわりの細菌とウイルス」というテーマで講演をいただきました。地球上に微生物が誕生した話から始まり、その後の進化のことや、感染症のこと、ウイルスと細菌の違い、ウイルスを通過させないマスクのこと、食品に利用されている微生物のことなど私たちの生活の身近に存在している微生物のことを詳しくお話していただきました。「ウイルスを通過させないマスク」については、実際にウイルスを通過させないマスクをG1の生徒全員に試着させていただき体験もすることができました。また、食品に利用されている微生物では、納豆から分離した納豆菌やヨーグルトから分離した乳酸菌などをサンプルとして持ってきていただき見ることができ貴重な時間を過ごすことができました。総合学科の2・3年生の選択授業で「微生物利用」という科目で微生物の学習を行っていますし、食品や調理に関する授業のなかで食中毒の感染症に関する学習もありますので、今後の勉強に大いに役立つ内容だったと思います。



1年生「産業社会と人間」体験学習 ～伝統工芸ものづくり(組子)体験～

2月6日に島根県建具協同組合理事長舟木清さん、同組合専務理事深田知群さんに来ていただき、伝統産業に関するお話と組子という建具製作の指導をしていただきました。組子製作では六角形の組子を作りました。

【Aさんの感想】

体験では木を組み立てるのが難しく苦戦したけど、グループの人や舟木さんや深田さんのアドバイスなどで組み立てることができました。組子はいろいろな建築に使われていてすばらしい日本の技術で決して失ってはいけない技術だと思いました。

【Bさんの感想】

亀甲という文様を基本に独自に様々な文様や、組むだけではなく編むというものもありすごい技術だと思いました。組み立てが難しく、ずらすと組み立てていく職人さんの姿を見て何十年もやってきているからこそできることでさすが職人さんだと思いました。

【Cさんの感想】

組子づくりでは木と木を組み合わせるのが難しかったのですが、完成した時の達成感が何とも言えないほど嬉しかったのを覚えています。また、島根の伝統工芸や技術などはたくさんあり、どれも素晴らしいものばかりですが、後継者がいないという課題があるということを知りました。これは私たち若い世代の人たちが守り、受け継いでいかないといけないと感じ、私もその手助けができたらと思いました。

